

2022年度「B&G海洋性レクリエーション指導員」  
第5回センター・インストラクター養成研修 実施報告書

2022.7.22  
事業部 事業課

B & G海洋性レクリエーション指導員規程 第3条に基づき、下記のとおり研修を実施し、34名が課程を修了したことをご報告いたします。

記

1. 「事業概要」及び「修了試験結果」並びに「登録認定課題」について

【事業概要】

本研修は、海洋性レクリエーション（以下、海レク）活動や水泳指導、地域コミュニティの活性化を担う人材であるB & G海洋性レクリエーション指導員（以下、B & G指導員）を育成し、習得したプログラムに基づく実践活動を通じて、青少年の健全育成や海への理解促進、地域住民の健康増進、地域の発展に寄与する目的で実施するものである。

2022年度「B & G海洋性レクリエーション指導員」第5回センター・インストラクター養成研修は、沖縄県本部町B & G海洋センターにおいて、6月6日から33日間の合宿研修を開始したが、研修開始6日目の6月11日に新型コロナウイルス感染症の疑いがある発熱者が発生、同日PCR検査の結果、陽性が確認された。当該研修生を始め、合計で25名の陽性者及び1名の濃厚接触者が確認され、退所者が26名となったが、待機期間を経て、18日から実技研修を再開し、7月8日に34名が修了した。

【修了試験結果】

研修生 34名全員が学科試験および実技試験（ヨット、カヌー、水泳、ロープワーク）に合格。  
※修了試験の内容・試験項目・合格基準については、「B & G海洋性レクリエーション指導員 養成研修の修了試験に関する達」に基づき実施した。

【登録認定課題】

研修修了者は、所属海洋センターにおいて以下の登録認定課題を行い、実施内容を明記した「実績報告書」を2022年9月30日（金）までに提出したものに限り、資格の認定・登録を実施する。

◆資格認定条件となる認定課題

- ①（新規項目追加）海洋性レクリエーションの指導または指導補助を行う
- ② 水辺の安全教室の指導または指導補助を行う
- ③ 「リーダー研修」を開催し、3名以上のリーダーを養成する
- ④ 所属する海洋センターの指導者等に研修で習得した内容を伝達する

2. 期間 2022年6月6日（月）～ 7月8日（金）（33日間）

3. 場所 沖縄県本部町B & G海洋センター（マリンピアザオキナワ）  
沖縄県国頭郡本部町字浜元410

4. 参加者及び修了者

【6/5 受付時点】 男性 50 名、女性 12 名 合計 62 名

(最年長者：50 歳、最年少者：18 歳、平均年齢：28.1 歳) ※参加者名簿 別紙

【7/8 修了時】 男性 30 名、女性 4 名 合計 34 名 ※修了者 34 名

(最年長者：46 歳、最年少者：19 歳、平均年齢：27.7 歳) ※参加者名簿 別紙

5. 研修スケジュール及び履修時間

履修時間 計 236.5 時間 (規程時間 180 時間以上) ※研修スケジュールは別紙

6. 沖縄研修のコロナ対応及び天城町での実施対策 (案) について

項目	沖縄研修 (実績)	天城町での対策 (案)
基本的な感染防止対策	マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保、手指消毒の徹底	同様の対応を行う
コロナ対策 配付物品	不織布マスク、手指消毒液、清拭用消毒液、ペーパータオル、非接触型体温系	同様の物品配付を行う
事前及び到着時 PCR 検査実施	<u>実施していない</u>	<u>事前に自治体において、PCR 検査の実施を必須とする</u> <u>また、到着時に PCR 検査を実施する</u>
陽性者の対応	陽性者は退所とする (療養期間終了後に帰京)	同様の対応を行う
発熱等の体調不良者の対応	発熱等の体調不良が発生した際、即隔離し、研修に参加させない	同様の対応を行う
研修開始前の看護師による健康チェック	那覇空港における看護師 3 名による健康チェック	看護師を調達の上、同様の対応を行う
毎日の検温、体調チェック	一日 3 回の体温、健康チェック	同様の対応とし、毎回教官へ報告を必須、体調不良者は即隔離を徹底する
最寄り空港からの移動手段	那覇空港から財団が手配したバスにて、研修地まで送迎	宿泊施設に依頼し、施設のバスを手配し、徳之島空港から研修地までの送迎を予定
共有スペースの使用制限	大浴場の利用禁止	同様の対応を行う
休務日の対応	休務日の外出禁止	同様の対応を行う
日用品の買い出し・飲酒の対応	休務日の前日のみコンビニへの日用品の買い出し及びボートハウス前での飲酒を許可した	車でしか買い出しに行くことができないため、 <u>部屋の代表 1 名、休務日の前日のみ</u> の買い出し及び研修生の飲酒を許可する
居室定員	定員 4 名とした	<u>定員 2 名とする</u>
指導スタッフの	PCR 検査の実施を必須とした	同様の対応を行う

事前検査		
居室内の換気	工業用扇風機をレンタルし、各居室に設置した	予算状況に応じて、レンタルを検討する

7. 前回からの「改善事項」及び今回の課題について

(1) **40歳超及び20歳未満の研修受け入れについて**

- ・今回から自治体側の強い要望により、20歳未満及び40歳超の参加者を事前にオンライン面談を実施することを条件に、研修へ受け入れることとした。

**【結果】**

- ・当初62名の際の平均年齢は約28歳で例年と比較して大きな変化はなかった。
- ・事前のオンライン面談では、40歳以上の方は自治体から派遣意図や帰郷後の役割などが明確に与えられていて、本人自身の研修参加モチベーションも高い傾向にあった。
- ・実際に研修期間中、小澤研修生や太見研修生は、研修生の中でも一目置かれた存在で、他の研修生から尊敬、模範と見られており、40歳超であっても、十分に養成研修の参加、修了ができると証明された。
- ・一方で、40歳超の中でもコロナ陽性者の発生や本人のケガで退所となった研修生がいたことも事実であり、心身ともに健康で体力があり、海レクや水泳のスキルを有するということはとても個人差があるということが見ていてわかった。

※なお、今回の参加者には20歳未満の参加者で、事前に本人及び上司も要項を確認していない、B&G指導員の先輩も要項を確認せずに、那覇空港から直接マリンピアザへ公共交通機関を使用して行くように参加者に指示した自治体もあった。コロナ禍の研修に無理解な自治体や参加者に対しては、他の研修生を危険にさらし、研修の実施、継続に影響及ぼすことが懸念されることから、即刻退所としたい。

**【今後の対応、課題】**

- ・次年度以降も20歳未満及び40歳超は事前のオンライン面談を行うことを条件に受け入れたい。
- ・ただし、今回の事例により20歳未満については、海洋センター所長同席で面談実施し、本人へ研修内容やコロナ対応など説明、理解させるとともに、上席ヘルール違反の場合は、退所となる旨をあらかじめ説明する必要があると考える。

(2) **教科項目・各教科の履修時間の見直しについて**

- ・今回はコロナ陽性者が発生し、イレギュラーな対応、授業中断を求められたが、履修時間236.5時間を確保した。

**【結果】**

- ・規程の教科項目、時間数と実際を比較すると、以下の項目について、実態と乖離している部分があるため、教科項目の整理、統合、各教科項目の履修時間の見直しが必要と考える。

例)「B&G指導員養成研修の教科」 規程(抜粋)

<b>【実習】</b>	・救急法	規程：10時間
2. 救急法・救助法	・救助艇操船、水上バイク救助法	2022実績：3時間

※直接的に救急法・救助法に該当するカリキュラムは、2022年度実績でコロナ待機期間中に座学のレポート提出を行った3時間のみである。

【今後の対応、課題】

- ・天城町での実施状況も考慮した上で、180時間の履修時間を維持しながらも履修時間の項目、分類を現状と実態に即した形で変更し、教科項目とそれぞれの履修時間数の見直し、規程改正につなげていきたいと考えている。

(3) **中間試験の実施及び修了試験の厳格化、CE資格価値向上について**

- ・18日から実技課業が再開したところ、特に水泳については、自主トレでの練習時間が少ない状況ではあったが、立ち泳ぎや100メートルの泳力がないものが見受けられた。
- ・そのため、水泳、カヌーについては課業中に時間を確保し、修了試験と同様の内容を実施し、実技ができていない研修生には、自主トレ時間での練習を指示した。

【結果】

- ・カヌー、ヨット、水泳、学科試験では1名～10名の追試者が発生、追試試験を行うこととし、追試試験の合格を持って、修了となった。

【今後の対応、課題】

- ・今後は、研修の効率化やCE資格の価値の向上及び自治体へ優良な者を派遣してもらうことを目的とするため、研修スケジュール作成当初から、中間試験(学科も含む)の時間を設けるとともに、修了試験を厳格化し、具体的には天城町から実技、学科ともに、修了試験に落ちたものは、そのまま退所となる旨を記載し、現場でも同様の対応を取ることを検討したい。

(4) **海洋センター指導員の活用について**

- ・今年度はコロナ陽性者が発生したため、急遽5名の指導員をキャンセルし、実技を5日間後ろにずらして実施した。後ろ倒しの実技スケジュールを実現するためには、新たな日程で5名のサポート指導員の確保が必要となり、すぐに多くの海洋センター指導員に電話連絡を行い、5名の指導員の派遣協力を得ることができたため、実技スケジュールを無事に実施することができた。5名の指導員の協力がなければ、実施できなかったため、改めて、海洋センター指導員のサポートに感謝したい。

【結果】

- ・コロナ禍での研修となり、安心して研修をとともに実施できる指導員を中心としながらも、大空町の長尾指導員や大野市の飯田指導員など若手も織り交ぜて、派遣計画を作成したが、陽性者の発生で、若手の派遣が中止となった。

【今後の対応、課題】

- ・今後についても、ベテランに加えて、若手サポーター候補も派遣依頼を行い、未来のベテラン指導員として、未永く協力していただける指導員と関係づくりをしていきたい。コロナ禍だけでなく、通常の養成研修でもサポート指導員の力なくしては、研修を安全に実施することができないため、引き続き、海洋センター指導員を活用させていただきたい。

(5) **居室定員4名について**

- ・前回の研修は15名の際には居室定員を3名としていたが、今回は参加希望センターが当所の定員を上回っていたため、4名×15部屋（確保上限62名）で対応することとした。

**【結果】**

- ・結果としては、コロナ陽性者が発生し、同部屋の4名が全員感染した部屋が複数あり、居室定員が増えることは、コロナ禍においては、大きなリスクとなることがわかった。

**【今後の対応、課題】**

- ・9月の天城町では、居室定員を2名とし、感染リスクを下げることを行いたい。
- ・サンセットリゾートの宮田社長に相談したところ、居室定員2名及び予備部屋の確保依頼について、了承いただいている。
- ・9月参加者への要項には、陽性者だけでなく、陽性者と同室の濃厚接触者も同時に退所となる旨を明確に記載し、同部屋同士で気を付ける意識づけを行うとともに、事前に自治体側にも、退所リスクを伝える。

(6) **新人教官について**

- ・養成研修を修了して初めて教官として参加する3名（大久保、栗原、二階堂）がおり、それぞれが与えられた役割及び現地での突発的な業務にも対応し、研修の実施及び継続に貢献した。
- ・二階堂さんは東條、鈴木、亀谷が保健所やホテル、財団との連絡、情報共有及び今後の研修継続に向けた対応を追われていたため、カヌー、ヨット実技の準備を中島さん、時津町の尾道指導員とともに、18日からのカヌー、ヨット、船外機の使用に係る器材点検、修理、運搬、試運転を実施してくれたおかげでスムーズに進行していくことができた。
- ・また、その他コロナ陽性者の発生及び待機期間の際の派遣となり、予定していたカヌー概論の座学やカヌー実技は実施できなかったが、居室待機中の研修生への3食のお弁当提供や一日3回の各居室内線への体温や体調確認の電話、居室での待機を強いられている研修生への差し入れ品の購入、配付など研修生の生活管理全般、イレギュラーなコロナ対応現場の要求にも嫌な顔をせずに対応し、フットワーク軽く動いてもらい、担当課の研修継続に必要な業務を行う時間の確保を取ることができ、非常に助かった。

**【結果】**

- ・実技、座学を行った教官は、プレゼン資料のブラッシュアップや説明内容のシミュレーションなど、入念な準備をし、当日は自信を持って研修生の前に立って、堂々とした指導の様子がうかがえた。
- ・栗原さんは、安定した説明の仕方で、十分に理解した水泳概論の講義を行い、大久保さんは、持ち前の人当たりのよさと落ち着いた雰囲気により、安全教室の実技では、研修生を引き付ける指導を行っていた。

**【今後の対応、課題】**

- ・個人では海レク実技の得意、不得意はあるが、その人の個性を活かして、海レク以外の学科や実技などで、教官として養成研修で指導を行う経験は、本人たちの自信と研修生とのつながりを持つためにも必要だと感じるため、研修修了後の数年間は、各課の業務に影響しない範囲で、今後とも、教官として若手職員への派遣をご了解いただきたい。

(7) **修了者全員へのアンケートについて ※詳細はアンケートまとめを参照**

- ・今回、初めてすべてのカリキュラムの「必要性」「講師・内容」などについて、修了者全員からアンケートを取った。
- ・今までは、感想文の裏面に財団への要望を記入してもらっていたが、それを変更し、修了者からきちんとした形で意見を吸い上げて、今後の研修の改善につなげる目的で行った。

**【結果】**

- ・「講師・内容」の回答では、説明、内容がよかった講師とそうでない講師がはっきりわかれたため、講師の選定や内容の変更を検討していくいい材料となった。
- ・「財団への要望」で対応できるところは、今後の研修に活かしていくとともに、「ホテルへの要望」については、マリンピアザへ情報共有し、施設環境の改善に活かしてもらう。

**【今後の対応、課題】**

- ・財団としての方針や信念を持ちながらも、参加者から意見をもらうことで、反省すべき点は改善し、よい点は伸ばし、ニーズに合わせて、柔軟にカリキュラムを変更していくために、天城町以降も修了者全員を対象としたアンケートを実施していく。

(8) **防災重機研修の実施（学科・実技）について**

- ・企画課から防災重機研修の受け入れ依頼があり、財団が積極的に推進している「防災拠点の設置」事業の重機資格の講習会を養成研修内で新たに行なった。

**【結果】**

- ・重機研修の実技を間近で視察したところ、研修生は積極的に「重機研修」を行っている様子が見受けられた。
- ・事業課アンケートでは、「防災重機研修」の必要性及び講師、内容等は、85%が「必要」、「満足」しているとの回答があった。
- ・事業課の視点としては、海レクや水泳の実技とは異なった、新しい防災という分野を研修の中で実施できたことで、財団が幅広い分野の事業に取り組んでいること、財団が「防災事業」も実施していることを多くの自治体、指導員に周知することができたこと自体はよかったと感じた。

8. 所感（事業課職員）

**【東條 剛之】**

今回の養成研修では、以前のアドバンスト・アクアの研修との違いと、研修生の結束力の高め方を確認したいと考えていたが、コロナ対応のため、スケジュールを変更しながら、陰性者の研修を修了させることを最優先させて取り組んだ。

今回は、事前に感染の疑いがある者を参加させないよう、受け入れ時の対策に力を入れたが、結果的に感染者をふるいにかけることができなかった。更に、研修開始の2～3日後に発熱していたにも関わらず、その旨を申し出ない、同室者もその事実を連絡しないなど、予想だにしない行動もあり、クラスター発生の要因となった。また、参加者要綱を確認しない者、海への強い恐怖があるにもかかわらず参加した者など、想定外のことが多かった。今までは、社会的常識があるとの認識のもと各種要項を作成していたが、今後は、募集要項や生活規則などを全面的に見

直し、細かく記載するようにする。

今回の研修生はかなり結束力の強い研修回となったように見受けられた。これは、コロナを乗り越えたことの副産物的効果と思えるが、今後も研修生の結束力や仲間意識を醸成させるため、少しハードルの高い課題を各クールで設定。それを協力しあいながらクリアしていくような演出も設けていきたい。また、各種試験も中間テストの機会を増やし、フォロー体制も整えつつ、不合格時の退所を明確化し、指導者の質を高めていきたい。

#### 【鈴木 昭正】

2年ぶりの研修実施にあたり、目標としていたのは「陽性者を出さずに、研修を無事に終える」ことであった。陽性者を出さないという目標は達成することはできず、ケガ等での退所者を含め、28名が修了できなかったことは、残念であった。

研修6日目で陽性者が発生した当初は、陽性者や保健所との対応が初めてだったこともあり、その後の研修がどのようになるかまったく見通せない状況であった。その中で、目の前の起きていることに一つずつ対応し、課題をクリアしていった先に、18日から実技研修を再開することができた。

事業課だけでなく、サポート指導員や財団の教官の協力があり、困難を乗り越えて、研修の継続が実施できたことは非常よかったとともに、事業への取り組み方としても、“どんなときでもあきらめずにできる道を探す”ことを身に染みて実感でき、養成研修チーム全体としても自信になった。

陽性者が発生した中、34名の研修生を修了させることができたことは喜びでもあったが、他課から初めての教官として参加した、大久保さん、栗原さん、二階堂さんがそれぞれの期間で、役割以上の成果を上げてくれたことに、指導者としての可能性を感じた。

水泳やカヌー、ヨット実技及び指導スキルが求められる役割もあるが、水泳概論などの座学、ロープワークなどのその他の試験項目、水辺の安全教室などの海レク以外の実技も研修には必要不可欠である。水泳実技が苦手な教官がいても、それ以外の科目の指導や説明において、その役割を果たすことができれば、十分に教官として、研修生からも信頼される存在になり、立派な教官となりえると改めて認識した。

今回の他課からの3名の教官は（二階堂さんはコロナ待機期間中での派遣となり、本来のカヌー実技の指導ができなかったが）、ぜひ今後も教官として来てもらいたいと考えている。

6月の研修でコロナ以外にも、修了試験の厳格化や規程教科科目等の見直しなど、課題があるが、一つ一つ改善策を提案し、よりよい研修となるように柔軟に変化させていきたい。

財団の定款が「海レクに限定しない」形での青少年の健全育成に変更されたが、強みであるBGの「海レク」は引き続き養成研修でもカリキュラムとして実施させていただきながら、新たな「地域社会の健全な発展」につながるカリキュラムや講師を取り入れて、財団の方向性を本研修の中で、研修生へ伝え、そこから自治体への理解につなげる役割も担っていきたい。

#### 【亀谷 智哉】

研修で最も印象に残ったのはコロナ対応である。6月6日、当初参加者62名で始まった研修はケガでの退所1名、素行による退所1名と、若干の問題はあったものの、あくまでキャパシティの範囲内の出来事であったが、加えてコロナの影響による退所が26名。合計退所者28名となっ

たことで、最終的に研修生は 34 名となった。

このことから 9 月研修に向けてコロナ対策を講じなければならないと考えた。9 月研修は、コロナ感染者が出た際の対応をマニュアル化し、参加自治体に事前に提示する必要があると考えられる。今回の問題は感染者が出た際に研修を続行するのか明確化できていないことに始まり、感染した研修生の対応策がほぼなく、結果的に財団への不信感、宿泊費返金問題が起こった。9 月の研修では、コロナ対応策、対応を強化すべきである。

研修の価値について、今回、34 名の修了生を輩出したが、指導者としての適正者を輩出できたのか疑問が残った。筆記試験では、34 名中 1 名が本試験に落ち、再試験での合格。水泳、カヌー試験では約半数が本試験に落ち、再試験での合格であった。研修への姿勢、技術習得が試される試験において不合格になるということは、基準に達していないため、認定指導員として認められないと考えるのが合理的である。今回はコロナの影響、今後の活躍に期待し、修了という形にしたが、今一度、研修の価値、研修内容を見直す必要があると感じた。

教官として、初めて参加したが、自分の指導力が未熟であることを感じた。特に集団行動法での指導の際、集団を動かす難しさや、指示出しの際、分からない人に教える細かな気遣いが不十分であると思った。その点、東條部長、昭正課長代理、ベテランサポーター指導員は経験豊富であり、指導員教官としての立ち振る舞いを心得ているように感じた。身を持って経験したことで現場指導の在り方を自分なりに考える機会をいただけて、実りある研修となった。

今回、養成研修はサポーター指導員のうえで成り立っていることを感じる事が多く、B&G の繋がりと将来的にサポーター指導員のように B&G に対して一生懸命になっていただける指導員の育成をしたいと思った。

全体を通して、結果的に 34 名の修了ができ、事業としては成り立ったが多くの課題が残る結果となった。

## 9. 表彰者

### ①最優秀賞 1名

・植野 剛志 兵庫県南あわじ市南淡 B&G 海洋センター

#### 【選考理由】

後期リーダーとして、海レク実技を中心に研修生を引っ張り、学科及び実技試験の全員合格に導いたため。

### ②優秀賞 1名

・酒井 喬史 香川県小豆島町内海 B&G 海洋センター

#### 【選考理由】

前期リーダーとして、コロナ陽性者の発生などの困難を乗り越え、全国から集まった研修生をひとつにまとめたため。

### ③カヌートライアル賞 1名

・小澤 誠一 長野県大町市 B&G 海洋センター

### ④ヨットレース賞 2名

- ・高木 元輝 岐阜県川辺町 B&G 海洋センター
- ・浅尾 恵太 熊本県南阿蘇村白水 B&G 海洋センター

⑤水泳賞 1名

- ・田崎 日向 栃木県芳賀町 B&G 海洋センター

⑥教官賞 1名

- ・福士 悠太 岩手県山田町 B&G 海洋センター

⑦B&G 財団 特別賞 1名

- ・太田 祥子 北海道美幌町 B&G 海洋センター

10. 外部講師及び海洋センター指導員

【外部講師】

氏名	所属団体	内容
LS 認定指導員	沖縄県 LS 協会	BLS 講習会 (コロナのため、講義のみ)
服部 浩充	気象予報士	講義：気象・海象
小峯 力	中央大学 教授	コロナのため、講義中止
大橋 卓生	パークス法律事務所	オンライン講義：リスクマネジメント
水井 涼太	ディスカバーブルー	オンライン講義：海洋環境、マリンスポーツ
岩崎 由純	日本ペップトーク普及協会	オンライン講義：ペップトーク
親川 修	バリアフリーネットワーク会議	オンライン講義：障害者スポーツ講座
安田 知子	琉球リハビリテーション学院	オンライン講義：障害者スポーツ講座
手登根 雄次	琉球スポーツサポート	オンライン講義：障害者スポーツ講座

【海洋センター指導員】

氏名	所属センター	内容
尾道 輝寿	長崎県時津町	ヨット実技
阿瀬川 文輝	島根県浜田市三隅	水泳実技
鬼塚 一夢	広島県呉市蒲刈	カヌー・SUP 実技
古賀 博隆	福岡県朝倉市甘木	水泳実技
曾根 由多	静岡県牧之原市相良	レスキュー
中村 大悟	大分県中津市耶馬溪	レスキュー
工藤 陽平	熊本県湯前町	ヨット実技
平田 剛	山口県周防大島町	ヨット実技
佐倉 亮	香川県池田海洋クラブ	カヌー・SUP 実技
種継 武	兵庫県上郡町	ヨット実技

稲 優大	鹿児島県天城町	カーヌー実技
草島 猛	北海道石狩市	カーヌー実技

1 1. 別紙添付資料

- (1) 教官反省・改善点フォーム（亀谷、中島、大久保、栗原、二階堂）
- (2) 財団からの修了者所感（藤江）
- (3) 参加者名簿（都道府県別・班別）
- (4) 研修スケジュール、履修時間表
- (5) 参加者アンケートまとめ
- (6) 修了のしおり

以上